

# ユニゾーン社長 梅田 ひろ美氏

経済人

やるべきこと

厳しい不況を経験し、あらためて人の大切さを実感した。ともすれば、成果主義や理論ばかりが先行するが、将来にわたる会社への貢献できる人材を育てるため、精神論を見直すようになった。

それぞれが心に希望を抱き、逆境にも逃げず胸を張っていけば、必ず生きがいを見いだせると信じている。「どんな仕事にもやる気を持って当たれば、そこに理想の環境が生まれるんです」。

## 新たな3K

今の設備では難しい仕事でも、工夫すれば引き受けられる。好調な時期には忙しさの中で断ることもあったが、そんな甘えは社員の気持ちから拭き取された。

感受性が高ければ、のみ込みも早く、環境の変化に対応していける。希

# 逆境でも逃げない



人には適材適所でさまざまなことをできる価値がある

うめだ・ひろみ 富山市出身。1988年前身の富山メッキ入社。91年専務、99年から現職。富山商工会議所女性会長、富山経済同友会幹事。61歳。

◆ユニゾーン(富山市) 1955年創業。90年富山メッキから現社名へ。電気めっき、無電解めっき加工など。資本金7650万円。2008年10月期の売上高40億円。

望と工夫、感受性の3K。人を育てるため、会社のスローガンに加えたんです。

経営者の立場として人を守る責任も自覚する。リストラや希望退職者の募集を行わず、社員やその家族を守り抜くため、全員のベクトルを合わせ

て切り抜けていくことに心を砕いてきた。

リーマン・ショック後、部署の枠を超え組織した委員会で見解を出し合ううち、社員の意識も少しずつ変わったと思う。若手社員でも「5分だけ時間頂けますか」と社長室を訪れて話す。自

身も気が付くと現場のリーダーと密に携帯電話で連絡するようになった。

「継続は力です。必ず夜は明けぬから、明日を望んで少しずつ積み上げればいいんです」

## 不況は薬に

週休3日と操業時間短縮は今月から全面解除した。また完全に持ち直したとは言えないが、光明は見えてきた。そのきっかけは人の力がもたらしたものと信じている。

後継者として信頼する専務や、次代を担う若手社員にも不況は良い薬になった。「今経験できたことに感謝です。会社の基礎を強くできるチャンスですから」。

社名のユニゾーンは、ユニが調和、ゾーンは地域を意味する。地域との調和を忘れず、支えられての周りへの「おかげさま」の気持ちで歩みを進めたい。